

胃がん検診を受診される方へ【注意事項】

－ 検診受診前に必ずお読みください －

胃がんは罹患数が高く、わが国のがん死亡の上位であります。早期に発見し早期に治療をすれば、治療が可能な疾患です。検診は、死亡率減少効果が認められている胃部エックス線検査で行います。

1. 現在妊娠中の方、または妊娠の疑いがある方は受診できません。

2. 飲食・常用薬 等について

- 検査は、原則12時間の絶食が必要です。

お呼び出し時間を確認のうえ、食事は検査の12時間前までに済ませてください。

12時間以上の絶食が困難な場合は、検査の8時間前までの食事を可とします。その際は、消化の良いもの（パン・うどん等）を良く噛んで食べてください。油ものや繊維質の食べ物は避けてください。

- 検査当日も、何も食べたり飲んだりせず検査を受けてください。

朝食はもちろん、薬（一部の常用薬を除く）・牛乳・コーヒー・タバコ等も口にしないでください。

【常用薬の服用について】

- 糖尿病の薬は飲まないでください。
- 心臓、血圧の薬は、検査開始3時間前までに飲んでください。

ただし、複数の薬が処方されていて薬名がわからない場合は、主治医と相談をしてください。

【水分の摂取について】

水分を控えることで健康に支障をきたす恐れのある場合は、検査の3時間前まで、コップ1～2杯の水は飲んでかまいません。

3. 検査終了後について

検査終了後は水分をたくさん摂るように心がけてください。

また、緩下剤を用意していますので、多量の水（コップ2～3杯）とともに服用してください。

特に、日ごろから便秘ぎみの方およびバリウムを飲んで便秘になったことのある方はお申し出ください。

検診を受けることが できない方

- 寝返り等、技師の指示に従って動くことができない方
- 自力で立ってられない方、寝返りができない方など技師の声掛けで身体を動かすことができない方
- 現在、胃や腸の病気で通院中の方
- 1年以内に胸やお腹の手術をされた方
- 胃または十二指腸の切除術を受けた方
- 腸閉塞・腸ねん転・大腸憩室炎などの既往がある方
- 過去1年以内に心臓の発作や脳梗塞等の脳血管疾患を発症された方
- 腎臓病（透析）などで水分制限を受けている方
- バリウムアレルギーの方
- 妊娠またはその可能性のある方



当日、検診を受けられない 可能性がある方

- 体調不良の方
- 血圧の高い方
- 脳卒中による麻痺や運動障害のある方
- 歩行が困難な方、骨折などのため動作に制限のある方
- 日常生活でよくむせたり、バリウムが気管支に入ったことがある方
- 過去にバリウム服用後、気分が悪くなり検査を中断したことがある方



胃がん検診Q&A

Q1

バリウム検査とは
どんな検査ですか。

発泡剤と造影剤（バリウム）を飲んで、膨らませた胃の形を診ることで、がんを見つける検査です。胃の形をきれいに撮影するために、検査の12時間前から検査終了まで、飲食を制限します。

Q2

バリウムを飲むのが
大変です。

少ない量でもきれいに撮影できるようにバリウムは改良されています。量が減り、飲みやすくなっています。



Q3

検査にかかる時間は
どのくらいですか。

当日の混み具合にもよりますが、受付から終了まで、1時間～1時間30分程度を目安にしてください。



Q4

日程変更は可能ですか。

受託機関までお電話をいただければ、空枠内での変更ができます。キャンセルされる場合も、早い段階で受託機関までご連絡をお願いいたします。

受託機関：(公財)東京都予防医学協会
電話：03-3269-1134

今回の検診の結果、精密検査が必要となった場合には、必ず専門の医療機関で精密検査を受診されますようご案内申し上げます。精密検査は一次検査よりさらに詳しい検査を行うもので、胃内視鏡検査、生検等を行います。

- ◆ がん検診は、死亡率減少効果が認められたエビデンスに基づいた検診方法で行われています。がん検診で、必ずがんを見つけられるわけではありません。また、がんでなくてもがん検診の結果が陽性となる場合もあります。
※精密検査対象となっても、必ずしも異常であるとは限りません。
(精密検査は保険扱いとなりますので自己負担金が生じます。)
- ◆ 早期発見・早期治療をするために、検診は継続受診をすることが重要です。また、症状がある場合には検診ではなく、すぐに医療機関をご受診ください。
- ◆ 精密検査結果については、市町村等へ報告します。また、他の医療機関に精密検査を依頼した場合は、検診機関もその結果を共有します。
※精密検査結果は、個人の同意がなくても、市町村や検診機関に対して提供できます。
(個人情報保護法の例外事項として認められています)

